

議題1

第2回懇談会(前回)での意見 について



■SRTの魅力をも高める付加価値について



名古屋都心への**来訪者**



SRTの**付加価値**

ライディング ラボ

- ▶「最先端」がキーワード。**Riding Lab**という考え方で、様々な新しいシステムやソフトをSRTで実験的に取り入れて、実装できるかをチェックする。これ自体が乗り物としての楽しさ、コンテンツとなる。
- ▶付加価値の実装について、本来必要なニーズとのバランスを踏まえた上でコンテンツ、付加価値を考えていって欲しい。

今後の進め方

- SRTの目的やターゲットを軸に、デジタル技術などを活用した付加価値を全体でコーディネートし、運行開始を目指す

新しい技術の実証フィールド
Riding Labとしての活用を検討

NAGOYA
FRONTIER
ナゴヤフロンティア

を通じた企業対話など、官民連携の取組に参加

全体コーディネート



様々な付加価値



新しい
移動体験に

■デザインコンセプト(案)について

- ▶ SRTは「スマート」であり、「**未来のシステム**」。歴史文化の未来への継承よりは、「**都心風景の未来を先導**」が良い。新しい乗り物という意味では、「**わくわく感**」がとても重要。
- ▶ **SRTがどういった使われ方をするか** (Riding Lab、名古屋の文化性を感じることができる、まちの活動を楽しみながら移動、など)を踏まえ、外側のデザインにつなげていく。
- ▶ 新しい乗り物がまちの風景の中の一つのエレメントとして、**SRTの車両が走っていること**で名古屋のまちが魅力的になる。

コンセプト例：A 都心風景の未来を先導



コンセプト例：B 歴史・文化の未来への継承



これからの進め方

「都心風景の未来を先導」する
SRTのデザインを目指し、検討を進める



議題2

デザインの方向性について



令和5年度

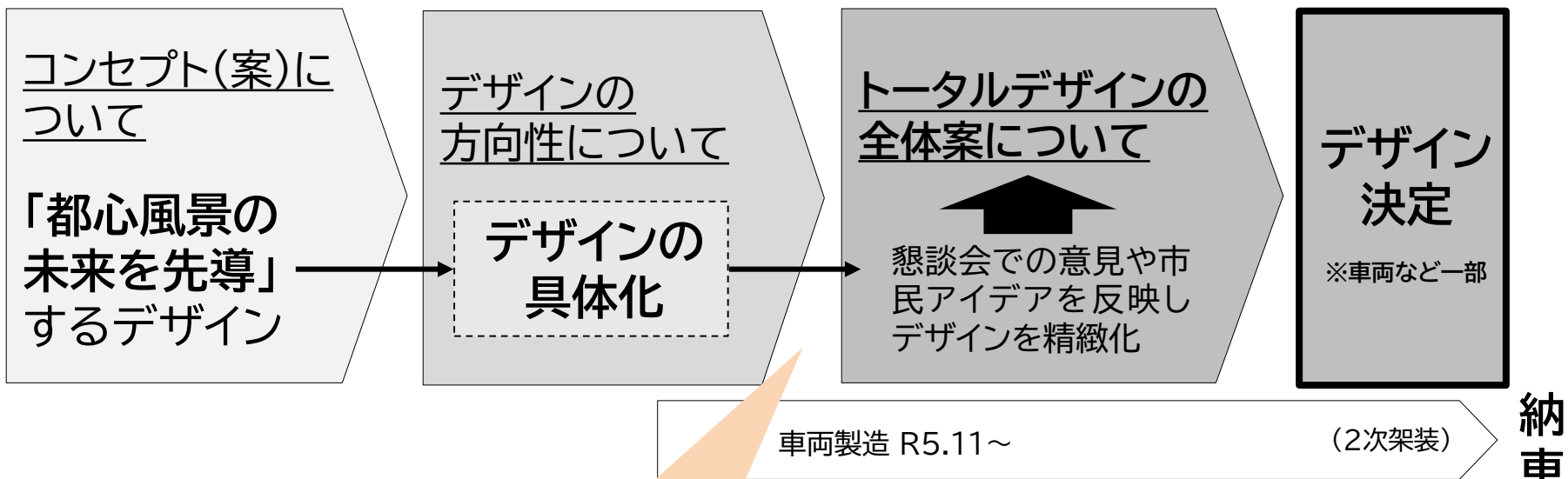
第2回懇談会
6月6日

★第3回懇談会
9月1日

第4回懇談会
2月5日

令和6年度

夏頃
までに



デザインの市民参画(10~11月頃)
(仮)「なごや都心風景の未来を描いてみよう」

SRTの車両(仮)に色をのせて、名古屋の都心風景の未来について、想いを聞かせてください



SRTトータルデザイン懇談会第3回

CFK + GK

2023.9.1

これまでの流れ

目的	都市部の回遊性の向上・賑わいの拡大・新たな都市のシステム	
SRTのコンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ① 「みちの再生による都心の魅力向上」 ② 「地区間の連携を強化する基幹公共交通」 ③ 「まちを訪れる人に新しい移動価値を提供」 	
ターゲット	名古屋都心への来訪者 いつもより、ちょっと良い体験を	
トータルデザインの 4つの基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 1. まちとの親和性 2. 明示性 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 拡張・展開性 4. 名古屋都心らしさ



懇談会第2回 デザインの方向性	<p>都心風景の未来を先導</p> <p>参考イメージ</p> 	<p>歴史・文化の未来への継承</p> <p>参考イメージ</p> 
--------------------	---	--



懇談会第2回のご意見を踏まえ、トータルデザインコンセプトを設定

都心風景の美しい未来を創造する

歴史や文化が積み重ねられた都心風景の魅力を増幅し、
都心風景の美しい未来の息吹を感じるデザインとする。

また、今後の通りのリノベーションを牽引し、
まちへの愛着や誇りの醸成につなげていくものとする。

風景

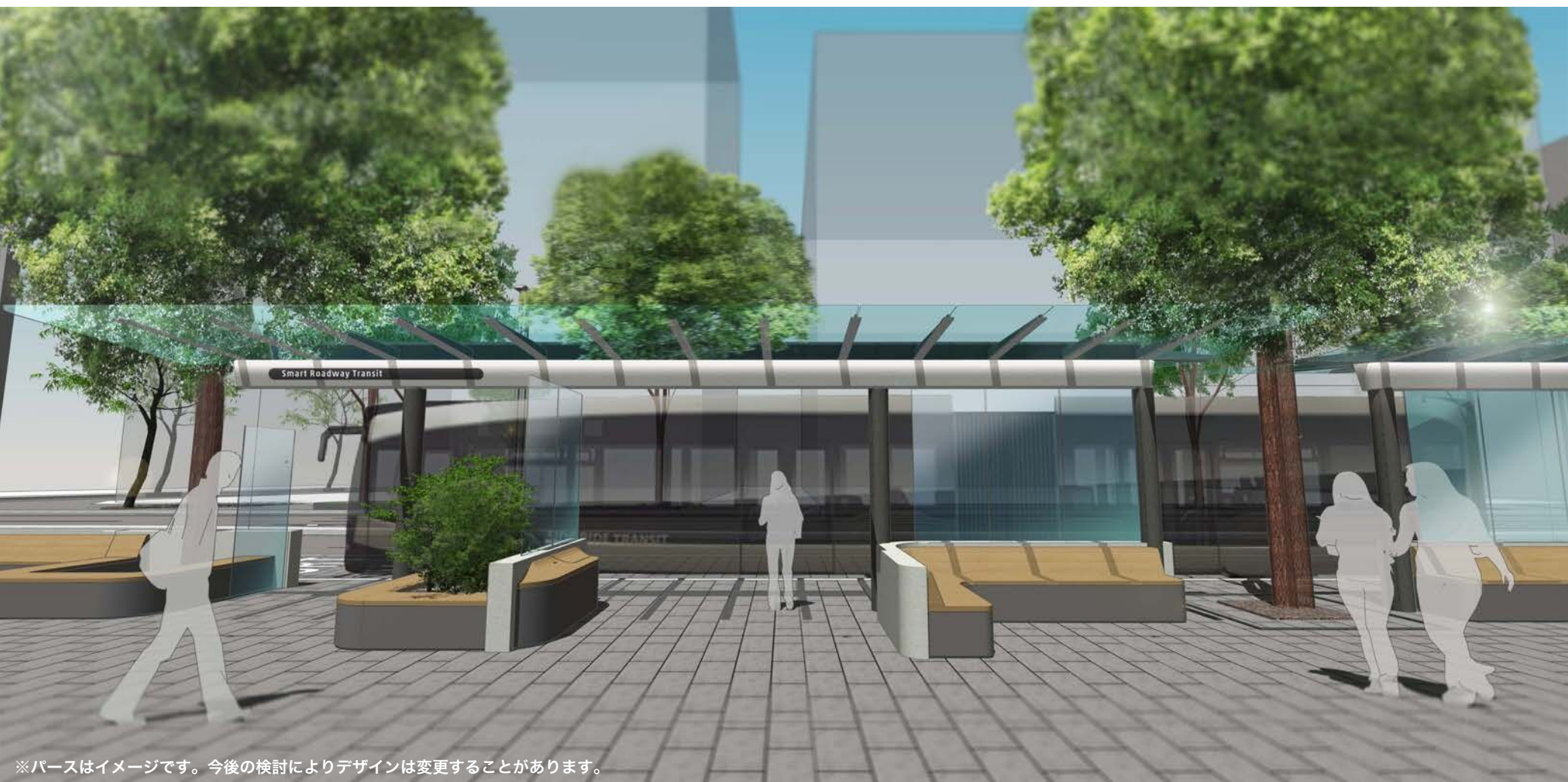
街路樹や新旧が織りなす沿道建築など、多様な都心の魅力を磨き、ひとを惹きつける**美しい風景**をつくる。



ひと

様々なひとの屋外活動を支えるための空間や設えを再整備し、ひとと環境の**美しい関係**をつくる。

コンセプト案（望ましいデザインの方向性を示したもの）



※パースはイメージです。今後の検討によりデザインは変更することがあります。

デザイン方針：車両エクステリア

『まちの魅力の増幅』

1 都心風景の魅力を引き立てる

- 車体に映し込まれる風景や光の「移ろい」によって、風景を引き立てるとともにまちなみと調和するデザインとする。
- 夜景にも新たな魅力をつくるため、路面を照らすあかり等の演出照明の検討を行う。

2 まちとの親密感をつくる

- まちなかを歩いている様子を感じとれる、まちとの親密感があるデザインとする。

3 まちや車体の特性を活かす

- 連接バスの特徴である車体の長さを活かしたデザインとする。
- 名古屋らしい精度高いものづくり文化を感じさせる質感や造形性を備えたデザインとする。



※パースはイメージです。今後の検討によりデザインは変更することがあります。

デザイン方針：車両インテリア

『まちの魅力を再発見』

1 まちとの親密感をつくる

- 車内でもまちをより身近に感じられるように、歩道側に面したカウンター席や車窓に囲まれたベンチ席などの座席レイアウトを検討する。
- 流れる車窓や奥行き感を強調した空間により、まちなかを移動する感覚をつくる。

2 まちや車体の特性を活かす

- 細部まで精度高く仕上げることで、洗練された都市にふさわしい品質高い空間をつくる。
- 質感高い素材感により、沿線が持つ爽やかな空気感や名古屋らしい洗練感を感じさせる。



※パースはイメージです。
今後の検討によりデザインは変更することがあります。

デザイン方針：乗降待合空間

1 まちの賑わいにつながる空間づくり

- まちなかの拠点として、官民連携し、地域とのつながりに寄与する空間づくりを目指す。（Nagoまちスペースと一体的な空間活用、モビリティハブ機能や歩行者の休憩場所、イベントスペース等）
- 歩行者を中心とした通りを目指し、沿道空間から歩道・車道を一体的に利用可能な空間を検討する。
- 車両と連携し、イベント時などの演出に対応できるしかけの導入を検討する。（デジサイ、バナーフラッグなど）



2 居心地が良く、人にやさしい空間づくり

- リビングのように居心地の良い空間を目指す。（木質系材料の活用、夜間照明の活用など）
- 既存街路樹を生かした施設配置を行う。



3 新たな公共交通としての明示性

- SRTルートを示すため、舗装グラフィック等によるアイデンティティの表現を検討する。

※パースはイメージです。今後の検討によりデザインは変更することがあります。

議題3

その他

～令和5年度の社会実験について～

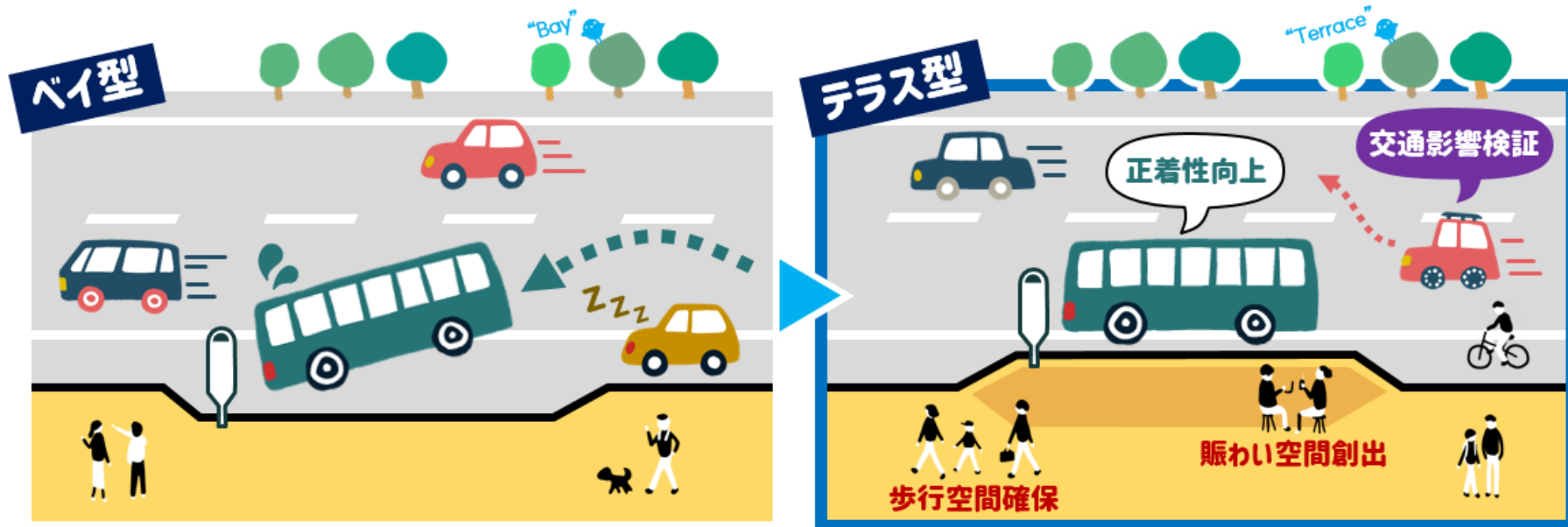


令和5年度 **SRT**
乗降・待合空間の社会実験
(R5.9.16~11.30)

なごまちテラス

広小路通の2箇所のバス停で、停車帯を活用したテラス型バス停の社会実験を実施





テラス型バス停のメリット

➤ バスの正着性向上

バスが駐停車車両の影響を受けず、バス停に停まりやすくなり、正着性が向上することでベビーカーや車いす利用者が乗り降りしやすくなる

➤ 賑いや憩い空間の創出

歩道の拡幅やデジタル案内板等を整備することで、広くて快適な待合空間が創出され、ウォーカブルなまちづくりに貢献

デジタル案内板の設置

- バスの時刻表やルート検索、周辺観光スポット、まちのイベント情報などを紹介



※設置イメージ(デザインは変更の可能性あり)





SRT公式の Twitter(X)開設！



- ・社会実験
- ・事業の進捗 など

色々つぶやいていきます

【アカウント】

@SRT_nagoya

